

入選

上級生から私へ、私から下級生へ

福島県 大山小学校 6年 菊田 実咲

私が四年生のときの話です。私の学校では、四年生から鼓笛の練習が行われ、五年生になってすぐ運動会や鼓笛パレードに参加します。

私は、低学年のときからあこがれていた「クオード」という楽器をやることになりました。決まったときは、とてもうれしい反面、学年で一人しかできない楽器なので、緊張もありました。

練習が始まると、まったくわからなかった私に、上級生に「がんばろうね」とやさしく声をかけてくれ、緊張が少しほぐれました。また、練習の際に私がわからないところがあったときは、いっしょに練習してもらったり、わかるまでやさしく教えてくれたりしました。

また、楽器を使わないで練習するときの道具を、作ってくれたりもしたので、私はもっと練習をがんばろうと思いました。

さらに、家でも練習したいとお父さんに話をしたら、大きさの違う箱を準備してくれて、クオードのような物を作ってもらったおかげで、学校の練習に加え、家でも練習をすることができました。

上級生や家の人に支えてもらったことで、難しいところもできるようになり、上級生にも、

「覚えが早いね。」

とほめられ、自信につながりました。

五年生になり、運動会当日、卒業した上級生が見にきていて、

「がんばってね、見てるから。」

と笑顔で言ってくれたときはとてもうれしかったし、今まで親切に教えてもらったことを思い出しながら演奏しようと思いました。また、演奏が終わり家族にほめられたとき、改めて達成感も味わうことができました。

鼓笛の練習を通して、ちょっとしたやさしい声かけや、はげましの言葉、また行動が、自分の自信につながったり、心が温かくなったりする経験することができました。

そして今は6年生。今度は私が、上級生に教えてもらったことをいかして、下級生に教えてあげる番です。

新しく鼓笛を始める下級生は、前の私のように、まったく鼓笛を知らないと思います。そして、とても緊張していると思います。だから、その緊張をほぐすようにやさしい声かけや行動をしたいと思います。

また、下級生にもこの親切な気持ちを忘れずに、上級生になったとき下級生に教えていってほしいなと思います。